

兵庫県医師会医療支援チーム（第38陣）「宮城県災害支援現地報告」

神戸市兵庫区医師会 福井 博行

6月5日朝一人で伊丹空港から出発。仙台空港滑走路には黄色い小花が咲き誇りその生命力に心打たれ、石巻へ向かう途中海側に広がる荒廃とした惨状を目にし、やるせない思いのまま正午頃に現地到着、申し送りを済ませ交代しました。市中心部は瓦礫も整理され行き交う人々も一見日常を取り戻しつつありコンビニも商品は充足され、避難所以外はごく普通の生活が展開されているような錯覚を味わいました。6、7日朝は石巻中で多摩地区（調布市医師会）、日赤心のケアチーム、地元保健師を加え第4エリアチームミーティングを開催。現状分析は、避難所での医療ニーズは減少気味だが在宅医療や心のケアの必要度が増してきている。7月以降は罹災証明がないと無償医療が受けられないことなど情報の周知徹底が不備で石巻市行政の対応遅れが被災者の不安に繋がっている。避難所の衛生管理に格差があるなどでした。担当5か所での診療行為も日に十数名で概ね生活習慣病の継続診療、近隣医療機関への紹介状記載と、他は腰痛や感冒など軽症対応で終了。6日夕に石巻日赤での全体ミーティングに幹事チームとして参加しました。溶連菌、水痘感染、虫発生の増加など今後感染症対策が喫緊の課題です。また、今回の我々の主な責務は行き先を失った有病被災者を地元へ誘導することでしたが、実態は多くの医療機関が再開を果たせたものの未だ疲弊感の中にあり、思惑と現実の乖離を痛感しました。被災地はまだまだ混迷の中にあり今後も有形無形の支援が必要だと思います。複雑な思いで7日夜帰路に着きました。

